

済生会山口総合病院 外来医師担当表

平成28年6月20日現在

診療科名		月	火	水	木	金
内 科 083-901-6102 ※呼吸器内科、 神経内科、 完全紹介予約制	循環器		小 野 史 朗 (循環器内科)		小 野 史 朗 (循環器内科)	國 近 英 樹 (循環器内科)
		塩 見 浩太郎 (循環器内科)	國 近 英 樹 (循環器内科)		塩 見 浩太郎 (循環器内科)	
		加 藤 孝 佳 (循環器内科)	赤 川 英 三 (循環器内科)		赤 川 英 三 (循環器内科)	加 藤 孝 佳 (循環器内科)
	腎 臓		今 井 剛 (腎臓内科)	渋谷 正 樹 (循環器・腎臓内科)	今 井 剛 (腎臓内科)	渋谷 正 樹 (循環器・腎臓内科)
	糖尿病・ 血 液	藤 田 直 紀 (糖尿病・血液内科)	村 木 和 彦 (糖尿病・血液内科)		村 木 和 彦 (糖尿病・血液内科)	藤 田 直 紀 (糖尿病・血液内科)
	消化器	原 田 稔 也 (消化器内科)	石 垣 賀 子 (消化器内科・胆膵)	花 田 浩 (肝臓内科)	* 輪 番 制	白 石 龍 (消化器内科)
	呼吸器		* 非常勤医師 (午前9時30分～)	* 非常勤医師 (午後2時～)	* 非常勤医師 (午前9時～午後0時)	* 非常勤医師 (午後2時～)
	【専門外来】 〇神経内科 毎週水曜日 * 古賀 道明医師の診察となります。 * 輪番制…4名の消化器医師が交替で診療を行います。					
外 科 083-901-6107	1 診	小 林 俊 郎 (心臓血管外科)	高 橋 剛 剛 (消化器・乳腺外科)	郷 良 秀 典 (心臓血管・呼吸器外科)	神 保 充 孝 (呼吸器外科)	高 橋 剛 剛 (消化器・乳腺外科)
	2 診	斎 藤 聰 (血管外科)		佐 藤 正 史 (心臓血管・呼吸器外科)		
	【専門外来】 〇乳 腺 外 来 午後0時～午後1時 毎週火曜日 上杉尚正 医師の診察となります。 午後2時～午後3時 毎週金曜日 高橋 剛 医師の診察となります。 〇下肢静脈瘤外来 午前8時30分～午前11時 毎週水曜日 斎藤 聰 医師の診察となります。					
泌 尿 器 科 083-901-6120	1 診	城 甲 啓 治	大 場 一 生	城 甲 啓 治	大 場 一 生	伊 藤 英 昭
耳鼻咽喉科 083-901-6124	1 診	竹 野 研 二	* 非常勤医師	竹 野 研 二	竹 野 研 二	竹 野 研 二
	〇竹野医師 午前9時～ 診療開始 〇火曜日 午前10時～診療開始 非常勤医師による診察となります。					
脳神経外科 083-901-6109	1 診	湧 田 幸 雄	北 原 哲 博	※ 完 全 予 約 制 湧 田 幸 雄	北 川 雄 大	北 原 哲 博
	〇北原医師・北川医師 【受付時間】午前8時30分～10時					
整 形 外 科 083-901-6108 ※初診は完全紹介制	初診	大 中 博 司 (脊椎・外傷)	三 原 修 三 (肩関節・外傷)	井 上 裕 文 (脊椎・外傷)	※完全紹介予約制 岸 本 哲 朗 (脊椎・人工関節)	大 野 晃 靖 (手足の外科・末梢神経・外傷)
	再診	岸 本 哲 朗	大 野 晃 靖	大 中 博 司 (脊椎・外傷)	井 上 裕 文	三 原 修 三
	〇大中医師 水曜日は午前のみ					
産 婦 人 科 083-901-6122	1 診	古 谷 信 三	* 非常勤医師	古 谷 信 三	古 谷 信 三	古 谷 信 三
	〇木曜日は手術日のため午前のための診察となります。					
眼 科 083-901-6123 ※初診は完全紹介制	1 診	休 診	* 非常勤医師	休 診	* 非常勤医師	休 診
皮 膚 科 083-901-6110 ※初診は完全紹介予約制	1 診	休 診	休 診	* 非常勤医師	休 診	休 診
	〇毎週水曜日 午前9時～午前11時 非常勤医師の診察となります。					
小 児 科 083-901-6106	1 診	* 非常勤医師	休 診	休 診	休 診	* 非常勤医師
	【乳児検診・予防接種】 月曜日・金曜日 午前10時～午前11時					

医療機関の先生方へ

* 印は非常勤医師

放 射 線 科	放射線科の診療は完全予約制となっております。		CT・MR・RIは直接ご予約できます。	
	放射線科検査についてのご相談は 放射線科 中村 洋 医師まで 083-901-6551		CT予約 083-901-6149 予約受付 MR予約 083-901-6151 〔月曜日～金曜日 午前8時30分～午後6時〕 RI予約 083-901-6154 〔※心筋シンチ・冠動脈CTについては内科・循環器科にご紹介ください。〕	
栄 養 科	糖尿病・高脂血症・減塩等の栄養指導、個人指導・糖尿病教室はお電話にてご予約をお受けいたします。 予約受付（月曜日～金曜日 午前8時30分～午後6時） TEL 083-901-6177			

地域連携室	患者さんのご紹介予約は、FAXにてお受けしております。詳しくは地域連携室へお問い合わせいただくか病院ホームページをご覧ください。 予約受付（月曜日～金曜日 午前8時30分～午後6時） TEL 083-901-6187 FAX 083-928-3357 E-mail:renkei@yamaguchi.saiseikai.or.jp 担当 河嶋 裕子	《用語の解説》 ☆完全予約制…事前に予約をお取り頂くことが必要な外来 ☆完全紹介制…医療機関からの紹介（紹介状の持参）が必要な外来 ☆完全紹介予約制…医療機関から事前に地域連携室へご連絡の上、紹介の予約をお取り頂くことが必要な外来
---------------------	--	---

✎「Life～ライフ～」・その他病院に関するご意見・ご要望等は、病院内に設置しております「ご意見箱」にご投函いただくか、病院宛にご郵送ください。

- 各科外来の受付時間は 午前8時30分～11時
診療開始時間は 午前9時～(曜日等により異なる場合あり)
急患の場合はこの限りではありません。
- 都合により代診・休診とさせていただく場合があります
のでご了承ください。

Life
No. 94

済生会山口総合病院広報誌 平成28年 7月10日発行

〒753-8517 山口市緑町2-11

TEL 083-901-6111(代表)
FAX083-921-0714

どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。



ライフ

NO. 94.



山口県済生会山口総合病院

発行：地域連携委員会 広報于一ム

発行責任者：院長 城 甲 啓 治

〒753-8517 山口市緑町2-11 TEL:083-901-6111(代表)

2016年7月号

4.14

熊本地震

～ 医療従事者同士の連携が重要 ～

派遣期間

4.21-23

済生会熊本病院への診療救護班の派遣について

医師：上杉 尚正(外科部長)、看護師：小井手 智恵(救急部)・河村 宙(東4階病棟)、事務員：関 正紀

この度、済生会本部より平成28年熊本地震における診療救護の要請を受け、済生会熊本病院で活動を行いました。用務は、救急総合診療センターでの看護業務です。

災害拠点病院である済生会熊本病院には、多くの患者さんが受診されていました。自らが被災しながら笑顔で対応される職員の方々や、不安をお持ちであろう患者さんから感謝の言葉をいただき、感慨深いものがありました。

私ひとりの活動は微力ですが、この活動が次に繋がることで被災地の医療が安定し、職員の方が少しでも休息できれば幸いです。

支援する側から支援を受ける側へ、いつ立場が替わるかは分かりません。医療者として何が
できるのか、また何をすべきか、今回の経験を今後に生かしていきたいと思います。

今回多くの方にご尽力いただき、安全かつスムーズに支援活動を行うことができました。
全ての関係者の方のご支援とご協力に感謝致します。

最後に被災された方に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の日も早い復興をお祈り致します。（小井手）

この度、熊本地震にて診療救護支援メンバーとして、済生会熊本病院へ向かいました。私の親戚も被災しており、所縁のある熊本で少しでも手助けが出来ればと思い、支援を希望しました。済生会熊本病院は遠くからみると被害は少なそうな印象でしたが、外壁が崩れたりヒビが入っているなどしており、被害の大きさを目の当たりにしました。

活動内容は主に救急外来でのサポートでした。済生会熊本病院のスタッフの皆さんは被災して疲れている様子でしたが、いつも笑顔で患者さんに優しく対応し、私たちにも優しく対応して下さい、見習わなければならない点が多くありました。私は支援を行う中で、少しでもスタッフの負担が減ればと考え、周りを見て動くように心がけました。微力ではありますが災害支援として携わらせて頂き、多くの経験ができました。熊本の皆様が1日でも早く復興できるように願っています。（河村）

理念：私たちは地域社会に信頼され、質の高い医療を提供します。

基本方針

- 一、急性期病院として地域医療機関との連携を積極的に推進します。
- 一、良質の医療サービスを提供します。
- 一、目標達成のため自己研鑽につとめます。

患者さんの権利

1. 平等で適切な医療を受けること
2. 尊厳が守られること
3. 医療に関する説明や情報の提供を受けること
4. プライバシーが守られること
5. 自らの意思で医療を選択すること

医療費に関する
ご相談をお受けしています

当院では、社会福祉法にもとづき、生計困難者に対して、無料または低額の費用で適切な医療を受けていただけるよう支援を行っています。

ご相談窓口 医療社会事業室
TEL 083-901

TEL 083-901-6268(直通)

熊本地震における 当院DMATの活動報告 (ディーマツト)

外科部長 齋藤 聡



▲ 左から湯面、林、齋藤、桂、平川

▲ DMAT本部での全体ミーティング

DMAT隊員

医 師：齋藤 聡
看護師：桂 真佐美 看護師：湯 面 真 吾
薬剤師：林 幹 也 事務員：平 川 久 則

2016年4月14日夜以降、熊本県を中心に大地震が起こり多くの方々が被害を受けました。DMAT(ディーマツト、Disaster Medical Assistance Team)はこのような災害時に被災地に迅速に駆けつけ救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームです。当院には医師1名、看護師2名、業務調整員2名で構成された1チームがあります。4月14日の時点でまず九州ブロック内のDMATによる活動が開始されました。更に16日未明に再び大きな地震が発生し被害が広がり午前4時に九州ブロック以外のDMATにも活動要請がきました。当院のDMAT隊員一同危険な任務になるであろうことを覚悟しつつも被災者を救う使命感のもと出動を決断し、不在中の病院業務の調整や出動準備を開始しました。被災地への移動には当院の救急車を使用することとしており、救急車に医療用資機材や通信機器のみならず、自分たちが現地で自立して過ごすための毛布や食料や飲料水も積み込みました(写真1)。

熊本地方は余震が続き道路は寸断されているとの情報あり更に西日本は強風大雨の天候不良であったため夜間の移動は危険と判断し、17日未明に当院を出発しました。熊本まではスムーズに移動できましたが、市内に近づくにつれ道路は大渋滞となり参集拠点である熊本赤十字病院には屋のように到着しました。市内は屋根瓦が落ちていたりブロック塀が倒れていたり家屋の破損が散見されたほか、水道が使用不可で赤十字病院内も数日で貯水がほとんどなくなり、トイレの手洗いの水も制限されていました。院内に設置されたDMAT本部には、各地からDMATが集集しており、我々も受付を行い指揮下に入り早速被害の大

きかった益城町での活動を指示されました。益城町にはいくつかの避難所がありましたが、中でも益城町保健福祉センターの避難所に救護所が設置され先発のDMATが活動中であり、夕方以降の業務を引き継ぐこととなりました。

熊本市から益城町に車で移動しましたが、町に近づくにつれ道路はひび割れ、建物は倒壊し被害が甚大であることが見てとれました(写真2)。夕方に保健福祉センターに到着しましたが、この施設にはおよそ1,000人の被災者が寝泊まりをしており、屋内には入りきれず屋外での生活を余儀なくされる方々もおられました。屋内であってもとに敷くマットやパーテーションにできる段ボールもなく、人と人の間隔がせまくプライバシーもなく、生活環境は決して良いものではありませんでした。

先発のDMATから活動を引き継ぎ、当院と防府市の三田尻病院のDMATの2隊で翌日午前中まで救護所での診療ほか種々の活動を行いました。救護所といっても部屋が用意されているわけではなく事務室の机と受付カウンターを使うしかありませんでしたが、カウンターの前まで被災者が寝泊まりしており、スペースはほとんどなく診療時のプライバシーも皆無でした(写真3、4)。

避難所にはDMATの他にも自衛隊、薬剤師、福祉や介護関係者、施設のスタッフなどが活動中であり、これら他職種と連携を円滑にするべく、連絡網の確認や定時にミーティングを行いました。自衛隊はDMATとは別に外に救護所テントを立ち上げ、日中は専属の医師や隊員による診療を行っていたため共同で任務に当たることができました。自衛隊による飲料水の配給、仮設風呂(写真5)や仮設トイレ(写真6)の設置は避難所の



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7



写真 8

人々の生活改善に多いに役立っていました。

薬剤師会は日本に数台しかないモバイルファーマシーを大分県から派遣しており数名の薬剤師が24時間体制で任務にあたられていました(写真7)。モバイルファーマシーとはキャンピングカーを改造し薬局機能を搭載した機動力のある災害対策医療品供給車両であり被災地でも薬剤の提供が可能です。このたびは急患以外に平時の定期処方が必要な避難者も多く、大変助かりました。

DMATは限りある被災地の資源はできるだけ使わず、自分たちの食料や居住などは自前で準備しなければなりません。食事はパンや缶詰がメインになり、インスタントラーメンや電気ポットも用意していましたが車の電力が弱くポットが使えず、初日にはラーメンなどお湯が必要な食品は食べられませんでした(写真8)。睡眠は基本的に床や車内でとるしかありませんでしたが、夜の冷え込みはかなり厳しく毛布に包まり寒さに震えながら仮眠をとりました。また余震は頻回にあり、震度3程度では話題にすらならず、常に体が揺れている感覚がありましたが、これが錯覚なのか余震なのか分からなくなってしまいました。風呂は上述の自衛隊が設置したものがありませんでしたが、被災者のためのものであり自衛隊やDMATは当然使うことはありません。ただし仮設トイレだけは衛生の観点から使わせてもらいました(DMATはトイレすら簡易的なものを持参することもあります)。

以上のようになんとか初日の任務を終え、18日の昼前に一旦益城町を離れ熊本赤十字病院のDMAT本部に戻りました。そこで同日夕から翌日まで再び益城町の避難所で活動するよう指示されました。食事と仮眠をとったのち益城町に戻り、今度は兵庫県から応援に駆けつけた市立西脇病院DMATと共同で任務に当たりました。2日目で施設や環境にも慣れ他職種とも顔の見える関係となり少し余裕ができてきたため、雑然としていた災害用の簡易カルテを整理したり、自衛隊と連携して重病者の搬送も可能となりました。

▼ 益城町保健福祉センター内



▲ 任務を終え当院に帰還